

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3370104998		
法人名	(株)エス・エッチ・メデカル		
事業所名	グループホームかえで (2階)		
所在地	岡山市南区松浜町 7-34		
自己評価作成日	平成25年1月10日	評価結果市町村受理日	

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

職場での年間目標と共に、個々に目標管理シートを作成し、自己評価をしながら 目標達成に向けて職員全員が努力しています。今年度は、外部研修への積極的な参加が多く見られ 日々のケアにも生かされています。特に、リーダー層は内部や外部の研修に多く参加し、知識や技術を向上させています。職員同士が働きやすい環境であるよう、管理者は職員ひとりひとりと接する時間を大切にしています。利用者については、ご本人や御家族とこまめに情報交換し、職員同士が共有することで 統一された個別のケアを提供しています。今年度は、開所してから10年ということで、開所当時の利用者の御家族や職員を招いて、お祝いのパーティーを開催しました。退所後数年が経過していても良好な関係が築けていることを嬉しく思っています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai gokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3370104998-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd">http://www.kai gokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3370104998-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd</a>
----------	---

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

閑静な住宅街の一角に両隣の民家と肩を並べよう建っているこのホームを訪問すると、窓際にL字型に2つ置いてあるソファーに男性利用者がそれぞれに座り寛いでいた。リビングの本棚に置いてある個人々の名前が書いてあるアルバムを見せてもらうと、入所以来のイベントの写真や素敵な笑顔が満載である。また、発語や日々の様子を年毎にまとめた利用者一人ひとりの人生歴ともいうべき記録を作成している。利用者を見つめるスタッフの温かい眼差しが感じられる。今年の改善コンクールの発表テーマは「認知症の新薬の効力」と聞いた。勿論家族の要望を受けてのことであるが、介護現場で取り組まれるハードルの高いテーマに感心した。そして、発表を是非聞きたいと切に思った。実際に食事が全介助だった〇〇さんに劇的なADLの変化がみられ、訪問日の昼食時、自分で箸を使いスタッフの介助なしで食事をされている姿を目の当たりにして驚くと共に感動した。また、かえで納涼祭を開催する等、地域住民との交流も活発で地域への貢献度も高い。

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO・会館		
訪問調査日	平成25年1月31日		

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「個々の能力を生かした温かいケア」の理念を職員全員が共有し、施設目標を掲げ、さらに各自目標管理シートを作成して、半期ごとに自主評価しながら実践につなげている。	理念を玄関やホーム内に掲示し、パンフレット等にも明示してある。家族の希望を最大限に生かし、利用者個人の希望や嗜好も尊重している。又、若い時の生活や特技を聞き、スタッフが利用者の思いに寄り添いながら個別ケアを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議にて情報を交換したり、日常的に交流が図れるよう昨年のアンケートを基に、地域の方が行事に参加しやすいよう改善している。また、地域の催し物へ参加し、交流を図っている。	町内の皆様へボランティアによる岡山民謡太鼓の催しへのお誘いをしたり、町内会長から子供達にも声掛けしてもらおう等、町内のバックアップも得られている。又、納涼祭に関するアンケートを実施する等、地域との交流に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や行事などでの交流を通じて、認知症の人の理解や支援の方法を地域の方々に向けて活かす努力をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	「地域」をテーマにして取り組んだ改善コンクルのメンバーが今年度も運営推進会議に参加し、報告や話し合いをおこない、サービス向上に活かしている。	町内会長、民生委員、家族代表等の参加のもと、地域交流をテーマに取り組み、スタッフにも司会役をしてもらっている。また、家族アンケート等を実施し、意見、要望等を次回の運営推進会議の議題に取り上げ、サービス向上へ反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者の方に運営推進会議への参加をお願いし続けている。地域包括の方には参加して頂き、日頃から連絡をとって、意見交換をしながらサービスの向上に活かしている。	毎年、市の担当者への参加依頼は継続して行っており、必要に応じて助言、指導は仰いでいる。地域包括のサブセンターの担当者も運営推進会議に参加してもらっているが、近隣の中学校区のサブセンターへも声を掛け、輪を広げているところである。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を中心に、定期的に勉強会をおこない、身体的・心理的拘束をしないケアに取り組んでいる。	鍵の施錠はしない、言葉による拘束に気をつける等、日頃から入所者の尊厳を大切にしている。また、玄関は自動ドアにしているが、施錠の時間を運営推進会議で相談し、夜は早めに施錠する等、家族からの意見を反映させている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止委員会を中心に、虐待についての勉強会をおこなったり、認知症実践者研修などでの研修内容を毎月の話し合いの中で共有し合い、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	該当する外部研修や内部研修に参加した職員が、会議にて他職員に学んだ内容を伝達し共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に書面にて十分に説明をおこない、納得・理解していただいた上で同意のサインをいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	サービス委員のメンバーを中心に御家族へ向けてアンケートをおこなったり、日頃より利用者や御家族から意見や要望を聞き、改善するよう努めている。	家族会への参加者も多く、意見交換も活発に行っている。家族が参加しやすいように、行事の日を利用して開催する等工夫もしている。また、「かえで便り」を発行したり、ご家庭アンケートをして接遇・ケアの内容・環境等意見、要望を反映させている。	家族がスタッフと共にこのホームの運営に関わって行こうという姿勢がよく窺える。会議録が年度毎ではなく、通算第〇回目の家族会か分かると思うので、記録の書き方を工夫してみてもいいだろうか。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の話し合いや個人面談時に、職員の意見や提案を聞く機会を設け、一緒に検討し反映させている。また、管理者は人材育成の研修を受けて、職員の意見を否定せず受け入れるようにしている。	話し合いの場ではスタッフに一言は必ず発言してもらい、意見や提案を聞いている。議事録に記載し業務改善に活かしている。また、お互いの良い点を褒め感謝しあうサンクスカードを作成、公表し意識の向上や職員間の愛和に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標管理シートで個々の目標を設定し、半年ごとに面談をおこない、実績を評価している。また、サンクスカード公表し やりがいや向上心を感じてもらえるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修案内のファイルを設置して、ひとり一人が自分に合った研修を選べるようにし、参加できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月に1度の同業者との意見交換や、グループホーム協会などの研修への参加を通して、ネットワーク作りやサービスの質を向上させていく取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時の面接や、生活歴シートなどを基に御家族から情報収集し、ご本人が困っていることや要望を引き出せるようにしている。また、安心して生活していただけるよう寄りそうケアを大切にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時には、御家族と時間をかけて話し合い、不安なことや要望をお聞きし、信頼関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時の情報を基に、アセスメントをおこない、ご本人と御家族等が必要としている支援を提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に利用者の立場に立って想いを理解し、寄りそうケアを大切にしながら なじみの関係が築けるよう努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や行事、外出時など、ご本人と御家族の絆を大切にしながら共にご本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人が大切にしてきた馴染みの人や場所の話に耳を傾けたり、希望があれば 御家族と相談しながら支援できるよう努めている。	入所して日の浅い〇〇さんは自宅がホームに近いので、一緒に買い物に行くと馴染みのスーパーの人が声を掛けてくれたり、また、〇〇さんとは自宅まで一緒に行き家の写真を撮ってきて飾ったり等、関係継続が良い形で行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、孤立せずに関わり合い、支え合えるような支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、必要に応じて情報交換をしたり 行事への参加をお誘いしたり、これまでの関係性を大切にしながら フォローや支援をおこなっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いに寄りそうケアを大切に、希望や意向が把握できるようにしている。困難な方には、日頃の思いの変化に気づけるよう努力している。また、御家族からの情報も参考にしている。	家に帰りたいという人が多いので、家族に相談し外出、面会を増やしてもらったり、電話してもらおう等、本人の気持ちを落ち着かせ、思いに寄り添うケアを実践している。また、利用者の意向や希望を色分けして細かく記録し、情報共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人や御家族、担当ケアマネなどから生活歴やこれまでの経過を聞き、細かく記録に残して 職員間で共有し把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりのペースを大切にしながら、暮らしの現状を細かく記録に残し、把握できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人や御家族からの意向を聞き、職員全員に意見を求め アイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ケアマネだけでなく担当のスタッフにアセスメント・モニタリングをしてもらい、全員でカンファレンスをしている。歩行希望の人、おしゃれがしたい人等 本人や家族の意見を反映した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・気づきなど細かく色分けをしながら個別記録に記入し、ご本人の思いや情報を職員間で共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人や御家族の状況に合わせたケアを心がけ、その時々生まれるニーズに対応して 柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し、活用しながら、安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援しているが、不十分であると感じている。心身の力をもっと発揮できるように支援していきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診が必要な時には、ご本人と御家族の希望を確認し、納得が得られたかかりつけ医や専門医から適切な医療を受けられるように支援している。	月2回内科医が往診に来てくれ、歯科医の訪問診療もある。しかし、本人が希望すれば家族に受診に連れていってもらったり、歯科受診もお願いしている。家族の理解、協力の力が大きい。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の様子や小さな変化も細かく訪問看護師に報告・相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は、病院関係者との情報交換や相談をしながら、できるだけ早期に退院できるように努めている。また、日頃から病院関係者との関係づくりも大切にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化になっていく早い段階でご本人や御家族と話し合い、職員間や医療関係者と共に共有しながらチームで支援できるよう取り組んでいる。終末期の方針は入居時に伺っているが、その時の状態によって何度も確認するようにしている。	昨年一人看取りをした方がいた。家族やスタッフに看取られての穏やかな最期だった。後日、家族より「父はここにいて幸せだった」「私もここに入りたい」と感謝の言葉をもらった。医療関係者と綿密に連携を取り合い、家族とも相談しながら方針を確認し、支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備えて、定期的に応急手当や初期対応の訓練を行い、全職員が実践力を身につけられるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行っており、地域の方にも回覧板をまわし、参加・協力を呼びかけている。また、消防署からの指導を仰ぐ体制も築いている。	年2回の消防避難訓練は勿論のこと、緊急時デモストも主に夜勤者、未経験スタッフを対象に年2回実施している。またAEDを設置しているので、町内の人の参加も呼びかけ使用方法の講習を一緒にする等、協力体制を構築している。	南区は市内でも津波災害が近年取り沙汰されている地域でもあり、今後は液状化等の被害も想定して、緊急時の利用者の受け入れを含み、地域の人と話し合う機会を持つてはいかか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念を常に頭の中に置き、一人ひとりを尊重しながら声かけをし、誇りやプライバシーを損ねないように対応している。	寂しがり屋の人もいれば、一人になりたい人もいる。スタッフは長年の付き合いで雰囲気で分かるので、「どうする？」と耳のそばでやさしく声を掛け、ご本人の意志や人格を尊重する対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりの中で、ご本人の思いや希望が表れた時は記録に残し、職員間で共有できるようにしている。困難な方にも寄り添い、思いを汲み取る努力をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者と共に過ごしながら、一人ひとりのペースを大切にケアをおこない、その日に行きたい場所や買いたい物など希望があれば支援できるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しむことができるよう、一緒に準備や食事、片付けをおこない、個々の能力を生かしたケアに努めている。	昨年に比べ今年は比較的中軽度の方が多いので、調理もホーム内で出来る回数が増え、野菜と一緒に切ってもらったり、盛り付けを手伝ってもらったり、時には買い物も一緒にする等、その時々状況に合わせた柔軟な対応に取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態や力、習慣に応じて、誤嚥や栄養・水分不足にならないよう、食事の形態や量を工夫している。必要な方には水分チェックもおこなっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々の能力に応じた口腔ケアをしている。必要であれば、歯科往診も利用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの力や排泄パターンを把握し、トイレでの排泄ができるよう支援している。状況に応じて、御家族とも相談しながらおしめの使用を検討している。	排泄の自立支援に向け、紙オムツはなるべく使用しないが、中には夜間使用する人もいる。家族とよく相談しながら、スタッフだけの意見では決めないようにしている。各居室にトイレがあるので、プライバシーを守り、安心感を得られる配慮が嬉しい。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の工夫をしながら、個々に応じて運動への働きかけをおこなっている。また、かかりつけ医や看護師に相談しながら便秘の予防と対応に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	職員の都合で無理強いせず、個々のタイミングに合わせて、入浴を楽しむことができるよう支援している。	個人の希望やタイミングを重視し、その日の状況に合わせて柔軟な対応をしている。入浴した日の本人の反応は、不快感もなくなるので気持ちも良くなり、食事も進み、よく眠り、スタッフのケアに対しても協力的である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、日中横になっていただいたり、入浴後に休息できるよう支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師の支援のもと、薬に関する情報を職員全員が理解し、かかりつけ医に相談・報告しながら症状の変化の確認をおこなっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時に御家族に細かい生活歴を記入していただいたり、日々関わることで、一人ひとりの力を活かした役割や楽しみごとを見つけて支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望にそって、御家族と相談しながら外出できるよう支援している。また、地域の人々の協力をいただきながら、地域の行事にでかけられるように支援している。	目標達成計画に掲げた外出支援に力を入れており、近くの公園に散歩に行ったり、入所して日の浅い元気な利用者と一緒に買い物に行くこともある。外出支援した日は支援記録に記入し、日常的にできるように取り組んでいるところである。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持されている方には、ご本人の希望に応じて使えるよう支援している。お金を持つことの大切さを理解し、買い物が楽しみなものとなるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望にそって電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	みんなでくつろげるスペースを確保し、生活感や季節感を採り入れながらそれぞれが居心地よく過ごせるよう工夫している。また、利用者に対して不快や刺激にならないよう職員は常に配慮している。	調理場からはリビングルームが見渡せ、畳敷きのスペースにはこたつが用意してあった。広めのソファに思い思いに座りテレビを視たり、畳の上で横になっている人もいて、それぞれ寛いでいた。室内にはホームの庭に咲いた花を飾り、季節感を漂わせていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士と一緒に過ごしたり、思い思いに過ごせるような居場所の工夫をおこなっている。また、独りの時間も大切にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人や御家族と相談しながら、入居前に使い慣れたものや好みのものを持ってきていただいたり、御家族の写真を飾ったりして居心地よく過ごせるよう配慮している。	居室は東と南側にあり、明るい陽ざしが入ってくる。各自使い慣れた椅子、机、小物、人形等々愛着のある物で飾られ、環境の変化が最小限になるよう配慮されている。102歳の誕生日を迎えたばかりの〇〇さんはお孫さんが選んでくれた服を着て、過ごされていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	御家族や職員間で相談しながら、個々の能力を活かした安全な環境づくりに努めており、自立支援もおこなっている。		